

内子発着型旅行を提案 第2回グリーンツーリズム講演会

うちこグリーンツーリズム協会（藤利通会長）は1月15日、(株)ツーリズムマーケティング研究所主任研究員の井門隆夫さんを迎え、「グリーンツーリズムによる内子発着型ツアーのすすめ」と題して講演会を開きました。

井門さんは「会員たちで自ら旅行会社を立ち上げ、農業を生かした旅行パックなどを開発して提供していこう」と訴えました。参加者は「地域資源や人材を上手に結びつけ、情報発信していきたい」と語っていました。



「これからは着地型観光の時代」と語る井門さん



成功事例からヒントを学ぼうと熱心に耳を傾ける参加者たち

「ものづくり」で新ビジネスを 地域雇用創造推進事業

内子手しごとの会（児玉政輝会長）と八西・大洲・喜多地域雇用創造促進協議会は1月15日、「ものづくり」を生かした地域産業の創造を考える講演会を開きました。講師の(株)日本デザインセンタープロデュース室チーフ・プロデューサー紫牟田伸子さんは、異業種の企業やデザイナーが共同でキッチングッズを製作・販売し、新たな地域ブランドを確立している福井市の事例を紹介。「ものづくりは情報発信と持続する仕組みが重要」と語りました。

美の里石畳を未来へ 石畳で風景づくり講演会

石畳地域協議会（政岡勝利会長）は1月23日、「石畳らしい景観とは何か」を考える学習会を開きました。

石畳地域では、昭和62年から、豊かな自然や暮らしの文化を生かした地域振興を目指して「村並み保存運動」を展開しています。学習会では、以前から同地域に関わりのある進士五十八東京農業大学教授が「歩いてみたくなる景観づくり」をテーマに講演し、これからの観光のあり方や石畳地域が目指すべき方向などを語りました。



参加者の熱意で、予定時間を超える充実した学習会に



ボランティアホリデーを考える 川登の明日を拓く集い

川登自治会（稲積仁志会長）は2月5日、川登の里交流センターで「川登の明日を拓く集い」を開きました。約40人が参加しました。テーマは、都市部の住民が休日を地方で過ごし、農林業などをボランティアで手伝う「ボランティアホリデー」。この事業に取り組みむ宇和島市商工観光課・小櫻博規主任が、「都市住民と受け入れ農家の交流が進みリピーターが増えている」と事例を紹介し、参加者は取り組みへの理解を深めていました。

17文字に新春を詠む 第33回内子町新春俳句大会

新春を題材に俳句を詠む、恒例の「内子町新春俳句大会」（主催：内子町文化協会、源田幸生会長）が1月17日、内子町共生館で開かれました。

町内外から66人が参加して132句が投句され、五・七・五のリズムにのせて情感豊かに詠まれた作品の数々が披露されました。入賞者は次のとおりです。

昭和刷子賞	木村千寿子さん（内子町） 「臥す母にうすく紅さす初鏡」
内子町文化協会賞	穴戸 柳子さん（内子町） 「捨てに行きまた抱き戻す子猫かな」
内子町観光協会賞	藤高エミカさん（大洲市） 「節くれのこの手をたのみ鉄始め」
内子町商工会賞	峰岡 桂子さん（大洲市） 「飲みなれし薬にむせる寒の水」
せきれい賞	萬徳 京子さん（須崎市） 「芭蕉みて子規みて我ら初句会」
せきれい賞	田中 澄子さん（内子町） 「自動ドアビタリと閉ざす寒の入り」



集まった俳句ファンの皆さん

地域文化を伝えるために 「気軽に文化講座in内子」シンポジウム

内子町教育委員会では、愛媛大学法文学部（黒木幹夫学部長）との共催で19年度から「気軽に文化講座in内子」を開いています。3年の節目として2月6日、藤目節夫・同学部教授や稲本隆壽内子町長らと交え、暮らしと文化を考えるシンポジウムが開かれました。学生と共に昔ながらの暮らしの風景を絵本にまとめた川登自治会の取り組みなどから、内子町ならではの文化を考察。未来へつなぐためにどうすればよいのかを考えました。



愛媛大学法文学部教授や稲本町長、受講生が登壇し、活発に議論



クイズ形式で会場を巻き込みながら講演を進める河村さん

「ありがとうのパワー」を共有 内子町人権・同和教育研究大会

「平成21年度内子町人権・同和教育研究大会」（主催：内子町教育委員会・内子町人権教育協議会）が2月7日、文化交流センターサルバルで開かれました。小・中・高校生と一般の代表者が人権標語や作文を発表した後、脳梗塞で言語・聴覚・右手に障害を残しながら、左手で絵や詩をかき、全国で個展や講演活動を行っている河村武明さんが講演。「夢が実現したのは、障害をチャンスと考えありがとうの気持ちを持ち続けたから」と語りました。